観光地域づくり法人形成･確立計画

記入日：令和７年　７月３１日

１．観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを〇で囲むこと	広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･地域ＤＭＯ	
観光地域づくり法人の名称	株式会社薩摩川内市観光物産協会	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 鹿児島県薩摩川内市	
所在地	鹿児島県薩摩川内市	
設立時期	平成 25 年４月１日	
事業年度	４月１日から翌年３月 31 日までの１年間	
職員数	61 人【常勤 61 人（役員 1 人、正職員 27 人、契約・パート 33 人)】 ※非常勤役員 12 名	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 井龍　大「専従」	経営企画部門で観光、物産分野に携わり、各事業の運営を行ってきた。当社の経営と、各種団体との調整を行う。取組についての最終意思決定を行う。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（ＣＭＯ：チーフ・マーケティング・オフィサー ※必ず記入すること	（氏名） 牧野　朝美「専従」	観光旅行事業部で商品企画、誘客事業に携わり、地域の観光関係者との関係性を築いてきた。経験をもとに、地域のブランディング、マーケティングを行う。
財務責任者（ＣＦＯ：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 井龍　大「専従」（兼務）	同上
物産部門責任者（物産事業部長）	（氏名） 満倉　正浩「専従」	食品の商品開発、Ｅコマース販売の経験を活かし、地域産品の開発に取り組む。実店舗とＥコマース販売により消費額アップに努める。

様式１

連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	【薩摩川内市】６部 12 課 薩摩川内市は、平成 21 年を観光元年と位置づけて平成 22 年４月から観光課とシティセールス推進課（令和４年度から観光物産課に改組）を中心にシティセールス[1]（以下「ＣＳ」と略す。）事業及び観光事業を展開してきた。 現在、副市長を本部長とする「ＣＳ推進本部」において庁内の連携・調整を図りながら諸事業を進めている。 ①　経済ＣＳ部　観光物産課：観光振興事業、物産販路拡大事業、甑島ツーリズム事業プロモーション、マーケティング ②　〃　経済政策課：企業振興事業、地域公共交通事業 ③　〃　産業戦略課：企業誘致事業、友好都市交流事業 ④　〃　文化スポーツ課：スポーツイベント・合宿誘致事業、文化振興事業 ⑤　未来政策部　企画政策課：定住支援事業、ぽっちゃん計画[2]事業 ⑥　〃　コミュニティ課：コミュニティビジネス事業 ⑦　市民安全部　環境課：藺牟田池（ラムサール条約登録湿地）観光事業 ⑧　農林水産部　農業政策課：農産品振興事業 ⑨　〃　畜産営農課：畜産品振興事業 ⑩　〃　耕地林務水産課：林産品及び水産品振興事業 ⑪　建設部　都市整備課：社会資本整備（公園、展望所、トイレ、スポーツ施設、道路等）事業 教育委員会　社会教育課：文化イベント事業
連携する事業者名及び役割	①　川内商工会議所：企業振興、イベント事業 ②　薩摩川内市商工会：企業振興 ③　地元金融機関[3]：企業振興、ビジネスマッチング ④　九州旅客鉄道㈱：旅行商品事業 ⑤　肥薩おれんじ鉄道㈱：旅行商品事業 ⑥　甑島商船㈱：旅行商品事業 ⑦　甑島ツーリズム推進協議会：環境保全・活用、観光振興事業 ⑧　薩摩川内市グリーン・ツーリズム推進協議会（以下、「ＧＴ協議会」と略す。）：教育旅行受入事業、農家体験事業 ⑨　薩摩川内市ホテル旅館組合、市比野・入来・祁答院・東郷ホテル旅館組合：宿泊施設魅力向上 ⑩　鹿児島県飲食業生活衛生同業組合薩摩川内支部：ご当地グルメ開発・販売 (NPO)薩摩川内市スポーツ協会、薩摩川内スポーツコミッション:スポーツ合宿事業
官民･産業間･地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	【該当する登録要件】② （概要）観光資源の関係者、宿泊事業者、交通事業者、商工会、行政が参画し、本法人が事務局を務める協議会を設置 〔参考〕登録要件 ①取締役、理事など観光地域づくり法人の意思決定に関与できる立場で行政、文化、スポーツ、農林漁業、交通等の幅広い分野の関係団体の代表者が参画 ②観光地域づくり法人が主導して行政や関係団体をメンバーとするワーキンググループなどの委員会等を設置

[1] 本市は「シティセールス」を「地域観光資源を再度見つめ直して、更に磨きをかけながら市内外へ総合的なプロモーションを行うこと」と定義し、雇用拡大と市民所得向上を目標としている。
[2] 「ぽっちゃん計画」は、総務省の地域おこし協力隊制度を活用した本市独自の事業である。大都市部の若者を当該地域に受け入れて地域住民と一緒に旅・食・品に関する商品開発に取り組んでいる。「ぽっちゃん」とは、地域おこし協力隊員が地域に「ぽっちゃん」としずくのように落ちて地域おこしの波紋が広がることをイメージしている。
[3] 「地元金融機関」とは、鹿児島銀行、南日本銀行、鹿児島相互信用金庫、鹿児島信用金庫のことである。

様式１

<table>
<tr><td>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</td><td>・薩摩川内市ＣＳサポーター制度
観光イベントや観光誘客が期待できる話題を告知しようと、市が設けた制度である。当協会と市はサポーターに対して情報を提供し、各サポーターにはボランティアとして各自の知り合いに口コミやＳＮＳで話題を広げていただく。</td></tr>
<tr><td>法人のこれまでの活動実績</td><td>【活動の概要】
<table>
<tr><th>事業</th><th>実施概要</th></tr>
<tr><td>情報発信・プロモーション</td><td>・2013 年～（継続）メルマガ配信
ＣＳサポーターへ毎週メルマガの配信を行う。
・2013 年～（継続）観光サイトの運営
市観光サイトを市と共同で運営、管理している。
・2013 年～（継続）旅行エージェント招聘事業
国内向け旅行会社を招聘して本市素材の PR と商品造成を促進する。
・2023 年～（継続）インバウンド推進事業
インバウンド旅行会社を招聘して本市素材の PR と商品造成を促進する。</td></tr>
<tr><td>受入環境の整備</td><td>・2013 年～（継続）グリーンツーリズム事務局
修学旅行生の受入と、農家体験の企画、販売
・2014 年～（継続）甑島ワンストップ窓口の設置
甑島の観光促進に向けて、観光予約・手配を行うワンストップ窓口を設置した。
・2015 年　公認観光ガイド事業
旅行客の安全性と利便性を高め、おもてなしあふれる案内サービスとガイドの資質向上を図るため、薩摩川内市観光ガイド公認制度を作り、公認観光ガイドを認証した。
・2018 年～（継続）JNTO 認定外国人観光案内所
案内所の機能向上のため、川内駅と入来麓の観光案内所を登録した。
・2022 年～（継続）観光ガイド育成事業
本土側ガイドの研修</td></tr>
<tr><td>観光資源の磨き上げ</td><td>・2013 年～（継続）きゃんぱく事業
体験型プログラムの磨き上げを行う。
・2023 年　インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業
市比野レンタサイクルの構築
・2023 年　サステナブルな観光に資する好循環の仕組みづくりモデル事業
放置竹林を再生する「バンブフル（Bambooful）・ツーリズム」の推進</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

様式１

【定量的な評価】

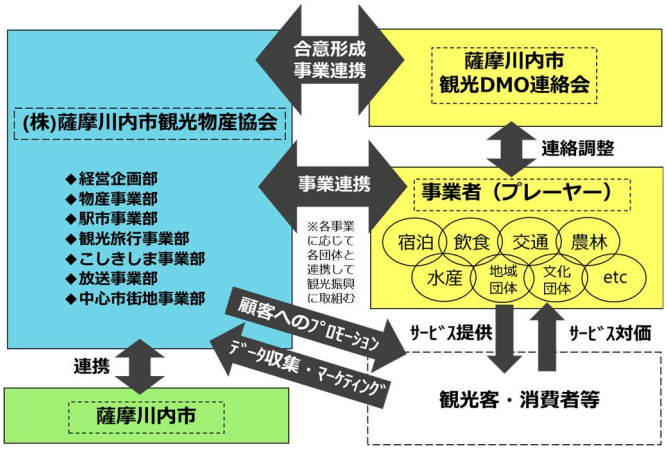
	2022 年度 （令和 4 年度）	2023 年度 （令和 5 年度）	2024 年度 （令和 6 年度）
純売上高	589, 101 千円	586, 466 千円	590, 242 千円
うち観光物産に関する事業※市受託事業を除く	365, 691 千円	361, 685 千円	353, 154 千円
純利益	8, 146 千円	6, 446 千円	1, 629 千円
取引業者数 ※毎年 5 月 1 日時点	255 社	253 社	261 社

実施体制
※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。

【実施体制の概要】

当協会を事務局とした、観光資源の関係者、宿泊事業者、交通事業者、商工会、行政で構成する「薩摩川内市観光ＤＭＯ連絡会」にて、取り組みに対する協議、連携強化を図っている。

【実施体制図】



２．観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】

様式１

【区域設定の考え方】

薩摩川内市は平成 16 年 10 月に全国でも稀な外界離島（甑島列島）を含む９市町村が合併し誕生した人口約９万１千人の都市である。その市域面積は 682.94 平方キロメートルと九州でも有数の広さを有しており、離島を含む広域であることと９市町村という広域合併であったこと等を鑑み、当協会は、単独市による区域をマーケティング・マネジメント区域として設定する。

【観光客の実態等】

※設定区域における観光客入込客数、延べ宿泊者数、消費額等を踏まえて記入すること。

	単位	2020 年度（R2 年度）	2021 年度（R3 年度）	2022 年度（R4 年度）	2023 年度（R5 年度）	2024 年度（R6 年度）
観光客数	人	2,586,365	2,744,126	2,853,405	3,127,156	2,891,139
うち宿泊者数	人	293,796	286,421	312,214	325,898	294,689
観光ガイド案内件数	件	203	209	293	294	291
甑島商船旅行会社経由乗船者数	人	11,169	13,975	14,360	13,781	11,468
教育旅行受け入れ人数	人	0	0	12	71	92

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

※観光資源の活用方法についても記入すること。

区分	概要	景観	食	商品開発	地域づくり	滞在	イベント	物産販売	ガイド
観光スポーツ施設	せんだい宇宙館、川内歴史資料館・川内まごころ文学館、旧増田家住宅・入来郷土館、生態系保存資料館アクアイム、下甑郷土館、甲冑工房丸武、国立天文台ＶＥＲＡ入来観測局、ＳＳプラザせんだい			○	○	○	○		○
	薩摩川内市総合運動公園、樋脇総合運動場、樋脇グラウンドゴルフ場、樋脇屋外人工芝競技場、入来総合運動場、丸山自然公園					○	○		
	駅市 薩摩川内（川内駅）、道の駅樋脇遊湯館、薩摩海食堂、ターミナル（川内港、里港、長浜港）、甑島活性化施設（中甑、手打）、川内とれたて市場		○	○	○	○	○	○	○
自然食・食材	寺山公園、川内川あらし、西方海水浴場、藤本の滝、藺牟田池（ラムサール条約登録湿地）、甑島国定公園、長目の浜、瀬尾観音三滝、鹿島断崖、ナポレオン岩、手打海岸	○		○	○	○	○		○
	川内高城温泉（名湯百選）、市比野温泉、藺牟田温泉川内市街地温泉、入来温泉	○	○	○	○	○	○	○	○
	カノコユリ	○		○	○	○		○	○

	いちご、ごぼう、らっきょう、きんかん、ぶどう、茶、水稲、海洋深層水		○	○	○	○	○	○	
歴史 文化 産業	新田神社・可愛山陵、薩摩国分寺跡、泰平寺、倉野磨崖仏、藤川天神、入来麓武家屋敷群（日本遺産、国選定重要伝統的建造物保存地区）、清色城跡（国指定）、内之尾の棚田（棚田百選）、里麓武家屋敷群（日本遺産）、手打麓武家屋敷群（日本遺産）、甑ミュージアム（恐竜化石展示施設）、助八古道	○	○	○	○	○	○	○	○
	入来神舞、東郷文弥節人形浄瑠璃（国指定）、甑島のトシドン（ユネスコ無形文化遺産）			○	○	○	○	○	○
	川内川（長崎堤防、江の口橋、輪中提）、次世代エネルギー施設（バイオマス、小水力等）、甑大橋、サーキュラーパーク	○		○		○	○		○
イベント	川内大綱引（国指定重要無形民俗文化財）、川内川花火大会、薩摩川内はんやまつり、市比野温泉よさこい祭り、甑マラソン大会等		○	○	○	○	○	○	○

※表中の○は活用区分に該当することを示している。区分は景観：景観形成・保全、食：食の提供、商品開発：旅・食・品に関する商品開発、地域づくり：観光地域づくり、滞在：滞在コンテンツ・プログラムの提供、イベント：観光イベントの実施、物産販売：関連商品の販売、ガイド：観光ガイドサービスの提供の意味である。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

地域区分[4]	ホテル		旅館		民宿		簡易宿泊 その他		計	
	軒数	収容人数	軒数	収容人数	軒数	収容人数	軒数	収容人数	軒数	収容人数
市街地	9	1,027	4	114	7	214	2	313	22	1,668
市街地周辺	1	0	2	39	4	74	1	8	8	121
田園地域	3	251	7	341	0	0	4	90	14	682
甑島地域	3	180	6	151	14	189	4	82	27	602
計	16	1,458	19	645	25	477	11	493	71	3,073

【利便性：区域までの交通、域内交通】

１．区域までの交通

①飛行機

東　京～鹿児島空港　約 95 分
名古屋～鹿児島空港　約 75 分
大　阪～鹿児島空港　約 65 分
※鹿児島空港～川内駅リムジンバス　約 70 分

②九州新幹線

博多駅～川内駅　（最速）　約 75 分
新大阪駅～川内駅（最速）　約 236 分
鹿児島中央駅～川内駅（最速）約 13 分

③自動車

鹿児島空港～本市　約 70 分
鹿児島市～南九州西回り自動車道
「薩摩川内都ＩＣ」　約 30 分

[4] 「地域区分」について、「市街地」は、本市の隈之城、川内、平佐西、可愛、亀山、育英、永利及び高来地区、「市街地周辺」は、平佐東、水引、峰山、滄浪、寄田、八幡、城上、吉川、陽成、湯田、西方地区、「田園地域」は樋脇町、入来町、東郷町、祁答院町、「甑島地域」は里町、上甑町、下甑町、鹿島町で区分する。

九州自動車道「横川ＩＣ」～本市　約 70 分

④肥薩おれんじ鉄道

八代駅～川内駅　約 150 分

２．区域内交通

①路線バス　一般路線バス　約 30 系統　約 280 便（平日最大）

くるくるバス　２系統 26 便（平日最大）※中心市街地を１周 50 分で回る循環型バス

その他の循環・横断バスなど　33 系統　225 便（平日最大）

②タクシー　10 社　164 台

③レンタカー　18 社（本土 11 社、上甑島　４社、下甑島　３社）

④観光バス　１路線（甑島・期間限定運行）

⑤甑島航路（甑島商船㈱）

川内港～甑島（里港、長浜港）　「高速船甑島」毎日２往復

※高速船甑島は定員 200 人

※川内駅～川内港（川内港ターミナル）にシャトルバス有

串木野新港～甑島（里港、鹿島港、長浜港）　「結 Line こしき」毎日２往復

※結 Line こしきは定員 385 人、乗用車 19 台＋8t トラック 5 台又は乗用車 41 台

※川内駅～串木野新港（いちき串木野市）にシャトルバス有

【外国人観光客への対応】

「道の駅樋脇」「川内駅観光案内所」「入来麓観光案内所」が外国人観光案内所に認定（JNTO 日本政府観光局）されている。※サービス内容：地域の観光案内を提供、パートタイムや電話通訳等で英語対応が可能等

パンフレットは、英・中・台・韓を制作している。外国語対応が出来る当市公認ガイドも認定している。

３．各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	来訪者の消費活動の動向を分析し、消費単価向上に繋げるため。	アンケート調査、延べ宿泊者数により算出。
延べ宿泊者数	宿泊者数の推移を把握するため。	対象施設に調査票を送付し実施する。
来訪者満足度	来訪者の満足（不満足）に繋がっている要因を分析し、戦略立案に繋げるため。	甑島来訪者アンケート調査により実施。
リピーター率	リピーター顧客の動向を把握し、戦略立案に繋げるため。	甑島来訪者アンケート調査により実施。
ＷＥＢサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	薩摩川内観光物産ガイド「こころ」を活用して実施。
住民満足度	検討中	検討中

４．戦略

様式１

（１）地域における観光を取り巻く背景

※地域経済、社会等の状況を踏まえた観光地域づくりの背景

（例）〇〇市では、人口減少が進んでおり、就業者数の最も多い農林水産業においても高齢化等の影響で就業者や事業所が減少傾向にある。こうした地域の課題に対し、観光地域づくり法人（ＤＭＯ）を中心として既存の観光資源を活用した観光地域づくりを図り、新たな雇用の創出や担い手不足の解消、交流人口の増加につなげることとしている。

薩摩川内市では、人口減少等による地域経済の縮小化が懸念される中、旅・食・品をキーワードにした観光産業の振興の重要性は高まり、交流人口の拡大が求められている。より魅力ある観光地づくりを進めるためには、「シティセールスと観光物産ビジネス」に携わる団体・企業や市民が、様々な取組について「自分事」として考え、自らの役割を果たすことが強く求められる。

このため、観光地域づくり法人を中心に地域全体の取組とすることで、地域経済に好循環をもたらす仕組みを作る。

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	**強み（Strengths）** **・自地域で積極的に活用できる強みは何か？** ①　豊富な歴史的・文化的遺産や伝統文化 ②　豊富な自然環境や温泉資源 ③　知名度の高い祭りやイベント ④　中国（常熟市）・韓国（昌寧郡）との友好都市締結 ⑤　多様な農産物 ⑥　有数の好漁場（甑島地域の周辺海域） ⑦　海洋深層水の採水（九州で唯一） ⑧　高等教育機関等の立地（鹿児島純心大学、ポリテクカレッジ川内） ⑨　次世代エネルギーによるまちづくり ⑩　コミュニティビジネスへの前向きな取り組み ⑪　定住支援施策の充実 コンベンション施設の開業	**弱み（Weaknesses）** **・自地域で改善を必要とする弱みは何か？** ①　長期的に増加傾向にあるゴールド集落[5] ②　少子化による学校の統廃合及び廃校による、地域での子ども達を中心とした活動の衰退 ③　根強く残る性別による固定的な役割分担意識や、これに基づく社会通念や慣行 ④　観光人材不足 ⑤　文化ホールや公民館など公共施設の老朽化の進行による、維持費の増大 離島の医療体制 、移住環境
外部環境	**機会（Opportunity）** **・自地域にとって追い風となる要素は何か？** ①　インバウンドの進展 ②　六次産業化・農商工連携への関心の高まり ③　健康やスポーツに対する関心の高まり ④　九州新幹線の開業による観光交流人口及び経済波及効果の拡大 ⑤　南九州自動車道の整備推進 ⑥　甑島の国定公園指定 ⑦　甑大橋の完成 ⑧　コミュニティやソーシャルビジネスによる地域課題の解決手法の広がり	**脅威（Threat）** **・自地域にとって逆風となる要素は何か？** ①　少子高齢化の進行、人口減少 ②　社会保障関連経費の急速な増大 ③　文化財の保存継承の危機（少子高齢化による後継者不足や文化財保存継承に対する認識不足等） ④　原子力発電所の安全性に対する国民の関心の高まり ⑤　公共事業費の削減 ⑥　社会基盤・公共施設の老朽化の進行による、維持費・更新費の増大

[5] 「ゴールド集落」とは65歳以上の人口が50%以上の自治会のことで、本市独自の名称である。

	⑨　地域の文化・芸術に対する関心の高まり 情報通信技術の利活用の広がり	

※上記に加え、ＰＥＳＴ分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

（３）ターゲット

〇第１ターゲット層
※ターゲット層については、地域だけでなく、国・地域・世代・誘客のテーマ等の顧客の属性による設定が考えられる。
（例）香港・台湾を中心とした東南アジア、３０～５０代のリピーター

福岡、熊本、関東、関西からの 40 代以上

〇選定の理由
※４．戦略（１）・（２）の分析を踏まえたターゲット層の設定であることを説明すること。
（例）他地域と比較して当該ターゲット層の来訪が著しく多く、また市場としても今後拡大傾向にあるため。

2024 年度の甑島個人型旅行商品の利用者実績によると、県外の利用者の割合が前年比 7%増えており、その中で新幹線沿線の都市圏と首都圏の利用者と、40 代のファミリー層やシニア層の来訪が多く、今後の増加が見込まれる。

〇取組方針
（例）満足度調査の充実などにより再来訪意向につながる要因を分析し、分析結果に基づいてターゲット層に強力に訴求するコンテンツを磨き上げる。

・宿泊、体験、交通をセットにした商品造成、エリア内旅行会社への営業
・ホームページの充実、メディアを活用したプロモーション
・郷土会（関東・関西）向けセールスの実施
・ＳＮＳ広告

〇ターゲット層
鹿児島市および鹿児島県内近隣市町村の 30 代～40 代、及び 60 代以上

〇選定の理由
鹿児島市は当市の隣接市であり新幹線、高速道路で結ばれており、アクセス利便性が良く来訪者が訪れやすい環境である。
2024 年度の甑島個人型旅行商品の利用者実績によると、市外県内顧客の割合は前年比２%減少しているが、全体に占める割合は４割以上と高く、距離的にもリピーターになりやすく強化する必要がある。
また日帰りでアクセスしやすいため、体験商品やバスツアーなどがアクティブな 30 代～40 代や 60 代以上に対して訴求できる。

〇取組方針
・体験型プログラム造成、プロモーション実施
・日帰りバス旅の企画販売
・ローカルメディアへの露出強化

〇ターゲット層
アジア（中国（上海）、韓国、台湾、香港）からの訪日外国人

〇選定の理由
鹿児島空港の定期便が就航しており、鹿児島県へのアクセスがよい。このうち中国（常熟市）・韓国（昌寧郡）に関しては、友好都市が所在し、これまで培った人的ネットワークを活かして誘客を図れるため。

〇取組方針
・国内旅行者向け商品のインバウンド対応化
・友好都市の旅行会社に対するセールス活動
・インバウンドのランドオペレーターの招聘事業

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	※他地域と明確に区別できる特徴・価値等を来訪者に伝える表現を簡潔に設定すること。 ＫＵＲＡＳＨＩ　ＳＡＴＳＵＭＡ ～当たり前。といえる幸せ。～
②コンセプトの考え方	※地域が目指すべき姿を明確にし、そのために地域ならではの産業、伝統、食、住、風習等やそこから導き出される区域の特徴（強み、価値）を、①コンセプトにどのように反映させているかについて他地域との差別化も踏まえて記入すること。 ※（１）～（３）のデータ分析の内容を踏まえて作成したコンセプトであることを説明すること。 地域には、皆が当たり前と思っている事が他地域では当たり前ではないモノ、コトがたくさんある。自然、歴史、食、空間、そして人にフォーカスして、当たり前と言える素晴らしい鹿児島、薩摩を提案していく。そして、地域一体となった観光地域づくりを行う。 この理念の下、西暦 702 年に薩摩国府が置かれた当市が、鹿児島のリーディングタウンとして鹿児島の文化を発信する役割を担い、市内外、国内外のお客様に「薩摩の暮らし」を知って頂きたい。

５．関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	※戦略の共有方法について記入すること （例）部会、ワーキンググループ、ＨＰ、事業報告書の説明会
	（例）ＤＭＯを中心として、地域の関連事業者を集めてコミュニーションの場を〇月に１回程度設けるとともに、関連事業者に対してのコンサルティング等を実施。 （例）活動の意義・内容・成果、ＫＰＩの達成状況や取組による地域経済・社会の変化の分析結果等を記載した事業報告書を作成し、地域の関係者に説明を行うとともに、ＨＰで公表。

	○薩摩川内市観光ＤＭＯ連絡会 ・当協会を事務局とした、市と関係事業者、地域事業者等で構成する「薩摩川内市観光ＤＭＯ連絡会」にて、取り組みに対する協議、連携強化を図っている。（年２回） ○甑島ツーリズム推進協議会 ・市の「甑島ツーリズムビジョン」を推進するための甑島ツーリズム推進協議会（会長：市長）において当協会は委員として参画している。また、下部組織の観光振興部会活動の事務局を担い主導している。（２カ月に１回） ○株主総会、取締役会 ・株主及び取締役は、市、経済団体、観光関係者で構成されている。年１回の株主総会と、四半期ごとの取締役会において戦略の協議と共有を行っている。
観光客に提供するサービスについて、維持･向上・評価する仕組みや体制の構築	（例）飲食店や宿泊施設をはじめとする地域が提供する観光サービスに係る品質保証制度を実施。 ○きゃんぱく事業 ・体験プログラムを実施するパートナーを発掘しながら体験プログラムの開発等を支援している。参加者へのアンケート調査を行い、参加者の分析、プログラムに対する評価をパートナーへフィードバックし改善するとともに、プログラムの開発に活用している。 ○公認観光ガイド ・市観光ガイド公認制度の運営を担い、研修を受けたガイドを公認ガイドとして認定している。 ○観光案内所運営 ・市が設置する川内駅、入来麓、上甑島及び下甑島の観光案内所の運営を担っている。甑島観光のワンストップ窓口（電話・メール問合せ・ウェブサイト）である「こしきしま観光局」を運用している。 ・お客様から受ける意見・要望等やアンケート結果を関係部署と共有し、サービスの向上に努めている。 ○旅行会社調査 ・ツアー誘致の旅行会社に対して、ツアー行程の交通、宿泊、食事、立ち寄り場所に関する評価（満足度）を得て、関係者間で共有し改善を図る。 ○甑島ツーリズム推進協議会 ・同協議会内の観光振興部会の事務局として、地域の観光関係者と受入体制の確認、評価と戦略の協議、商品開発を行っている。 ○ＧＴ協議会 ・修学旅行生の受け入れを行う同協議会の事務局を担っている。受け入れ家庭に対してアンケート調査を行い、意見の共有とサービスの品質向上に取り組んでいる。

観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信･プロモーション	（例）ワンストップ窓口の実施、ＳＮＳを利用した効果的なプロモーションの実施。 〇ワンストップ窓口 ・旅行業の資格を持っており、個人へのプロモーションや商談会等での旅行会社への誘致活動から、旅の手配や予約をワンストップで受けることが可能である。 〇ＷＥＢ ・観光サイトを市と共同で運用している。 ・ＳＮＳでの情報発信を行っている。 ・ＣＳサポーター向けに情報提供（メルマガ）を行っている。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

６．ＫＰＩ（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後３年間における明確な数値目標を記入すること。
※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去３年間の実績も記入すること。

（１）必須ＫＰＩ

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●旅行消費額（百万円）	目標	5,120	5,950	6,630	6,630	7,319	7,688
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	5,191	5,782	5,332			
		（ ）	（ ）	（ ）			
●延べ宿泊者数（千人）	目標	320	350	340	340	357	375
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	312	329	295			
		(7)	(18)	(26)			
●来訪者満足度（%）	目標	－	95	95	95	95	95
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	96	91	94			
		（ ）	（ ）	（ ）			
●リピーター率（%）	目標	－	30	30	30	30	30
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	25	27	39			
		（ ）	（ ）	（ ）			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】
※ＫＰＩとして設定する項目や年次及び目標数値に関して、その検討のプロセスや考え方を項目ごとに出来る限り具体的に記入すること。
　薩摩川内市を対象とした地域ＤＭＯとして、薩摩川内市観光物産課と連携を密にしながら活動を実施することから、観光物産課が調査を行っている薩摩川内市観光統計と甑島来訪者アンケート調査結果をＫＰＩとして採用。
【設定にあたっての考え方】
●旅行消費額
　薩摩川内市観光統計調査及びアンケートの数字を元に、延べ宿泊者数をベースに DMO 独自で KPI を設定。
●延べ宿泊者数
　薩摩川内市観光統計調査の数字を元に、市総合計画を踏まえて KPI を設定。2025 年度はコロナ前の回復を目指す。
●来訪者満足度
　（Ｒ５年度より変更）甑島来訪者アンケート調査より、95%という高水準を維持・継続させる。
●リピーター率
（Ｒ５年度より変更）甑島来訪者アンケート調査より、旅行関係の来訪者のリピーター率を DMO 独自で KPI を設定。３か年の平均より 30%のリピーター率を設定した。

（２）その他の目標

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●着地型旅行商品販売額（千円）	目標	113,200	86,400	75,300	60,900	64,700	66,600
		（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実績	81,439	68,666	57,843			
		（　）	（　）	（　）			
●ＷＥＢアクセス数（千件）	目標	700	720	697	745	767	790
		（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実績	715	679	724			
		（　）	（　）	（　）			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値
※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】
※ＫＰＩとして設定する項目や年次及び目標数値に関して、その検討のプロセスや考え方を項目ごとに出来る限り具体的に記入すること。
　交流人口や宿泊者増加のため、地域の素材を掘り起こし、旅行商品を企画、造成して、自社での販売を強化していかなければならない。あわせて、ホームページやＳＮＳを活用した情報発信が必要なため、販売額、アクセス数をＫＰＩとして設定した。
【設定にあたっての考え方】
●着地型旅行商品販売額
　ワンストップ窓口での手配や、自社ツアー、パック商品の販売、旅行会社へのユニット卸など着地型旅行商品の販売を指す。2025 年度は大型ツアー、船代助成事業を踏まえた目標となるが、毎年３%アップを目指す。
●ＷＥＢアクセス数
情報発信サイト「薩摩川内観光物産ガイドこころ」アクセス数を、薩摩川内市観光統計調査の数字を元に、市総合計画を踏まえて KPI を設定。

様式１

７．活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後３年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。
※現に活動している法人にあっては、過去３年間の実績も記入すること。

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４）年度	599,890 千（円）	【収益事業収入】 400,346 千（円） 【市受託収入】 188,755 千 【国からの補助金】 5,940 千 【その他収入】 4,850 千
2023（Ｒ５）年度	611,319 千（円）	【収益事業収入】 396,469 千（円） 【市受託収入】 189,997 千 【国からの補助金】19,430 千 【その他収入】 5,424 千
2024（Ｒ６）年度	598,814 千（円）	【収益事業収入】 389,950 千（円） 【市受託収入】 200,292 千 【国からの補助金】 0 千 【その他収入】 8,572 千
2025（Ｒ７）年度	603,210 千（円）	【収益事業収入】 400,000 千（円） 【市受託収入】 201,000 千 【国からの補助金】 0 千 【その他収入】 2,210 千
2026（Ｒ８）年度	617,000 千（円）	【収益事業収入】 412,000 千（円） 【市受託収入】 203,000 千 【国からの補助金】 0 千 【その他収入】 2,000 千
2027（Ｒ９）年度	631,000 千（円）	【収益事業収入】 424,000 千（円） 【市受託収入】 205,000 千 【国からの補助金】 0 千 【その他収入】 2,000 千

（２）支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４）年度	591,744 千（円）	【収益事業費】 382,781 千（円） 【観光振興費】 82,596 千 【物産振興費】 60,444 千 【その他事業費】 33,100 千 【管理費】 32,822 千
2023（Ｒ５）年度	604,873 千（円）	【収益事業費】 386,697 千（円） 【観光振興費】 88,807 千 【物産振興費】 36,687 千 【その他事業費】 60,313 千 【管理費】 32,369 千
2024（Ｒ６）年度	597,185 千（円）	【収益事業費】 391,663 千（円） 【観光振興費】 75,015 千 【物産振興費】 40,730 千

		【その他事業費】 63,119 千 【管理費】 26,659 千	
2025（Ｒ７） 年度	596,510 千（円）	【収益事業費】 388,590 千 【観光振興費】 78,410 千 【物産振興費】 42,920 千 【その他事業費】 60,720 千 【管理費】 25,870 千	（円）
2026（Ｒ８） 年度	609,000 千（円）	【収益事業費】 400,000 千 【観光振興費】 79,000 千 【物産振興費】 43,000 千 【その他事業費】 61,000 千 【管理費】 26,000 千	（円）
2027（Ｒ９） 年度	623,000 千（円）	【収益事業費】 412,000 千 【観光振興費】 80,000 千 【物産振興費】 43,000 千 【その他事業費】 62,000 千 【管理費】 26,000 千	（円）

（３）自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針

区域を構成する地方公共団体における宿泊税の導入、着地型旅行商品の造成･販売等の取組･方針を記載

市の業務委託や指定管理業務等の受託のほか、第二種旅行業者として着地型旅行の主催や旅行ユニット商品の企画・卸販売、旅行会社の手配業務の受託と、地域商社として物産の仲介・卸販売、川内駅物産施設（駅市 薩摩川内）やＥコマースでの小売販売により収益を獲得する。

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

※設定対象区域の都道府県及び市町村が、本法人を当該都道府県・市町村における観光地域づくり法人として認める旨を含む意見を記入すること。
（例）〇〇都道府県、××市町村は、△△法人を当該都道府県及び市町村における（広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･地域ＤＭＯ）として登録したいので△△法人とともに申請します。

鹿児島県薩摩川内市は、株式会社薩摩川内市観光物産協会を本市における「地域ＤＭＯ」として登録したいので、株式会社薩摩川内市観光物産協会とともに申請する。

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携ＤＭＯ（県単位以外）や地域ＤＭＯと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携ＤＭＯや地域ＤＭＯとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】
（例）エリアが重複する●●ＤＭＯとは、月に一度の連絡会を行い、各取組の意見交換を行っている。

【区域が重複する背景】

【重複区域における、それぞれの DMO の役割分担について】
※重複する活動がないか、第三者から見た際に合理的と捉えられる役割分担になっているか等を踏まえて記入すること。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	牧野　朝美
担当部署名（役職）	観光旅行事業部（マネージャー）
郵便番号	〒895-0024
所在地	鹿児島県薩摩川内市鳥追町１番１号
電話番号（直通）	0996-25-4700
ＦＡＸ番号	0996-25-4739
Ｅ－ｍａｉｌ	dmo@cocoro-satsumasendai.co.jp

１１．関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県･市町村名	鹿児島県薩摩川内市
担当者氏名	梶原　俊介
担当部署名（役職）	経済シティセールス部観光物産課 （観光シティセールスグループ長）
郵便番号	〒895-8650
所在地	鹿児島県薩摩川内市神田町３番 22 号
電話番号（直通）	0996-22-8115（内線 6221）
ＦＡＸ番号	0996-23-5211
Ｅ－ｍａｉｌ	cs@city.satsumasendai.lg.jp

都道府県･市町村名	
担当者氏名	
担当部署名（役職）	
郵便番号	

様式１

所在地	
電話番号（直通）	
ＦＡＸ番号	
Ｅ－ｍａｉｌ	

（登録）【地域DMO】株式会社薩摩川内市観光物産協会

様式2

記入日： 令和7年7月31日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】 鹿児島県薩摩川内市
【設立時期】 2013年4月1日
【設立経緯】 ③区域の観光協会がDMOに移行
【代表者】 井龍　大
【マーケティング責任者（CMO）】 牧野　朝美
【財務責任者（CFO）】 井龍　大
【職員数】 61人【常勤61人（役員1人、正職員27人、契約・パート33人）
【主な収入】 収益事業390百万円、市受託事業200百万円（2024年度決算）
【総支出】 収益事業392百万円、観光振興75百万円、物産振興41百万円、その他事業63百万円、管理費27百万円（2024年度決算）
【連携する主な事業者】
川内商工会議所、薩摩川内市商工会、九州旅客鉄道、肥薩おれんじ鉄道、甑島商船、甑島ツーリズム推進協議会、薩摩川内市グリーン・ツーリズム推進協議会、薩摩川内市ホテル旅館組合、市比野・入来・祁答院・東郷ホテル旅館組合、鹿児島県飲食業生活衛生同業組合薩摩川内支部、等

KPI（実績・目標）

※（ ）内は外国人に関するもの。

項目		2022（R4）年度	2023（R5）年度	2024（R6）年度	2025（R7）年度	2026（R8）年度	2027（R9）年度
旅行消費額（百万円）	目標	5,120 （ ）	5,950 （ ）	6,630 （ ）	6,630 （ ）	7,319 （ ）	7,688 （ ）
	実績	5,191 （ ）	5,782 （ ）	5,332 （ ）	—	—	—
延べ宿泊者数（千人）	目標	320 （ ）	350 （ ）	340 （ ）	340 （ ）	357 （ ）	375 （ ）
	実績	312 （7）	329 （18）	295 （26）	—	—	—
来訪者満足度（%）	目標	－ （ ）	95 （ ）	95 （ ）	95 （ ）	95 （ ）	95 （ ）
	実績	96 （ ）	91 （ ）	94 （ ）	—	—	—
リピーター率（%）	目標	－ （ ）	30 （ ）	30 （ ）	30 （ ）	30 （ ）	30 （ ）
	実績	25 （ ）	27 （ ）	39 （ ）	—	—	—

戦略

【主なターゲット】
福岡、熊本、関東、関西からの40代以上

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
・宿泊、体験、交通をセットにした商品造成、エリア内旅行会社への営業
・ホームページの充実、メディアを活用したプロモーション、SNS広告

【観光地域づくりのコンセプト】
KURASHI　SATSUMA
～当たり前。といえる幸せ。～

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】
・体験型プログラムの磨き上げ
・体験型ツアー企画

【受入環境整備】
・甑島ワンストップ窓口の設置
・公認観光ガイドの認定、ガイド研修
・グリーンツーリズム事業

【情報発信・プロモーション】
・メルマガ配信
・観光サイトの運営
・SNS配信
・旅行会社ファムツアー

【その他】
・旅行手配、ツアー企画
・観光周遊バス運行
・イベント事務局